平成 26・27 年度　研究紀要

研究テーマ：探究力・活用力が発揮される生活（3・4 年次）

「からだ」

うごく・うごきだす　つながる・つなげる

お茶の水女子大学附属幼稚園

はじめに

平成 26・27 年度　お茶の水女子大学附属幼稚園研究紀要をお届けいたします。

「探究力・活用力」をテーマとする本園の研究のはじまりは、6 年前の平成 22 年度に遡ります。お茶の水女子大学が文部科学省特別経費事業の採択を受け、学校教育研究部を中心として、幼・小・中・高の 4 附属及び大学が協同して、「附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究」に取り組みました。この 6 年間にわたる特別経費事業のキーワードが、「探究力・活用力」でした。

さらに本園では、平成 24 年度より、園内研究のテーマを「探究力・活用力が発揮される生活」とし、4 年計画で研究を重ねてまいりました。本年度は、その最終年度となります。

「探究力・活用力が発揮される生活」という 4 年間を貫く大きなテーマのもと、本園がこれまでに刊行してきた研究紀要は、次のようなサブテーマのもとにまとめられています。

平成 24 年度	「透明」	透ける・透かす・透きとおる
平成 25 年度	「道具」	持つ・選ぶ・活かす
平成 26・27 年度	「からだ」	うごく・うごきだす　つながる・つなげる

研究の 1 年次は、ペットボトルや水など、「透明」なものと子どもの関わりに注目しました。2 年次には、園内にあるさまざまな「道具」が、どのように子どもの好奇心や感性を喚起し、新たなあそびの展開につながるのかに注目して事例研究をおこないました。これらの研究成果をふまえ、まとめの年でもある 3・4 年次には、子どもたち一人ひとりの「からだ」をテーマとして研究を進めました。1・2 年次が、子どもを取り巻く環境の中にあり、対象化しうるものに注目したのに対し、3・4 年次は、子どもたち自身、その主体そのものを中心において、もの・ひと・ことの関わりを全体的に捉えなおしてみることを目的としました。

一般に、子どもはその発達の初期において、自他が未分化な状態にあります。しかし、子どもたちはやがて、自身を取り巻く環境や、身近な人びとからの意図的・無意図的な働きかけをきっかけとして、自身のかけがえのない「からだ」と「こころ」の存在に気づいていきます。そしてさらに、みずからの存在が保障されているという安心感を基盤として、身近な他者とつながりあいつつ、あそびを豊かに発展させていきます。その背後には、子どもの何気ない言動をこころに留め、その意味を共同的に読み取り支えてきた、教師たちの日常的な保育実践とこれにもとづく研究の積み重ねがあります。

本研究紀要が、幼児教育の研究と実践に携わる、すべての方たちの関心をつなぎ、広げていく一助になれば幸いです。

園長　藤崎　宏子

「からだ」うごく・うごきだす　つながる・つなげる

はじめに

プロローグ …… 5

研究の方法

1・2年次の研究

○ ものとの関わりに着目　1年次「透明」、2年次「道具」

3・4年次の研究

○ 心と一体となった「からだ」に着目

○ からだが「動く、動き出すとき」が探究の始まり！
～A児の姿から見えてきたこと～

○「うごく、うごきだす」から「つながる、つなげる」へ

Ⅰ．うごく・うごきだす …… 9

事例1　C児とさくらんぼ

事例2　「じゃあ、いいよ」　～D児の絵本やさん～

事例3　入れかわったふたり

事例4　透明になる

事例5　メダカのたまご

事例6　J児が動き出したとき

まとめ　うごく・うごきだす

Ⅱ．つながる・つなげる …… 17

事例7　トンボが来た日

事例8　描いた絵からN児の「思い」が伝わる

事例9　S児にとっての「描く」

事例10　長くつながった輪つなぎ

まとめ　つながる・つなげる

エピローグ …… 29

○「美しさ」や「不思議さ」を感じる　～感じる心・心と一体となったからだ～

○ 自ら身体を動かし関わる　～自分らしく「ある」こと・なりたい自分に「なる」こと～

○「もの」との距離を縮める　～「もの」の活用・「もの」の声を聴く～

○ 新たに発見し考える　～探究の深まり・「つながる・つなげる」・教師の援助～

資　料 …… 32

1. 平成 26 年度　公開保育研究会講演記録

2. 平成 27 年度　公開保育研究会講評記録

3. 平成 14 年度　本園研究紀要掲載巻頭言

4. 学びの概要

おわりに

おわりに

本園の研究会では、子どもたちの具体的な姿やそこに関わった教師の思いについて、それぞれの教師が語り、そこで子どもたちが体験していること、教師の在り方などを参加者全員で省察してきました。そして、その中で見えてきたことを研究としてまとめてきました。やっとこのような形で、ここに、平成26・27年度の研究を無事にまとめあげることができました。ここまで辿りつくのに、どれだけ子どもたちの事例について語りあったか分かりません。今回の紀要に掲載できたのは、そのうちのほんのわずかな事例です。しかし、ここであげられた事例の分析の中には、他の事例について話しあったことが、目に見える形にはなっていなくても、地下水のように流れていることを感じます。さらに、この研究で語り合ったことにつながる地下水は、もっとずっと前から脈々と流れていることを感じます。

「探究力・活用力が発揮される生活」というテーマで研究を重ねていく中で、関わる対象となる「もの」から、子どもたち自身の「からだ」に研究の視点が移っていきました。そこで、私たちは平成13年度から取り組んだ幼小連携研究の中で、保育分野として立ち上げた「(心と一体化した) からだ」という捉え方に立ち戻っていくことになりました。当然、その時の研究に立ち会ったメンバーばかりではありません。メンバーが変わりながらも、子どもたちの具体的な姿について自分のことばで表現し、お互いの感覚をつきあわせ、共通に導き出せるものを探っていくと、変わらぬ不易なものに近づいていくのだということを今回の研究で改めて気づかされました。研究成果としてまとまったものは、目新しいことではなくあたりまえのようなことかもしれません。しかし、研究をまとめていく過程で、元園長の片岡先生が平成14年度の研究紀要の巻頭論文で「単に網膜に映るものをみているだけではなく、生きたからだを通して子どもたちの体験の中に分け入って目に見えないものを見抜いていく」力を養うことが少しはできるようになったのではないかと考えます。そして、その力が、事例10「長くつながった輪つなぎ」にみられるような教師の自然な連携の姿を生み出すことを可能にしていたのだと考えます。

この紀要の内容が、読んでくださった皆様の「目にみえないものを見抜く」力に少しでももつながったら、大変嬉しく思います。ぜひご意見ご感想などもお寄せください。

最後になりましたが、ご指導いただきました佐伯 胖先生、本大学発達臨床学講座の浜口順子先生、刑部郁子先生、そして、平成14年度の巻頭論文を再録させていただいた元園長片岡康子先生、多くの方の支えがあって、実践者としての私たちの探究をここに紀要としてまとめることができました。どんな時も目を輝かせ生き生きと生活していた子どもたち、そしてその子どもたちの生活を支えてくれた保護者の皆様にも心より感謝申し上げます。

副園長　伊集院　理子

参考文献・参考論文

秋田喜代美（2011）「物との出合いからの育ち」,『幼児の教育』日本幼稚園協会　第110巻　第4号, p.50-53, フレーベル館.
加藤繁美（2007）『対話的カリキュラム〈上〉理論と構造』ひとなる書房.
加藤繁美（2008）『対話的カリキュラム〈下〉実践と展開』ひとなる書房.
倉橋惣三（1936）『育ての心』刀江書院（2008倉橋惣三文庫3フレーベル館）.
小林紀子・和田公子・木下育子・大内菜恵子（2014）「「なる」ことの意味―子ども・保育者の視点から①―」『日本保育学会第67回大会論文集』, p.420.
佐伯胖（2007）『共感―育ち合う保育のなかで』ミネルヴァ書房.
佐伯胖（2016）『物、道具、そして（カラダ）―幼児が開き、開かれる世界』（本紀要資料1）.
竹内敏晴（1988）『ことばが劈（ひら）かれるとき』ちくま文庫.
竹内敏晴（2001）『思想する「からだ」』晶文社.
津守真（1997）『保育者の地平』ミネルヴァ書房.
津守真・浜口順子（2009）『新しく生きる』フレーベル館.
山梨大学教育人間科学部附属幼稚園研究紀要（2014）『子どもが主体となる保育』.
本園研究紀要（2002）『関わりの視点で幼稚園の生活を捉える―4つの保育分野で考える』.
本園研究紀要（2007）『探究力・活用力が発揮される生活1年次―「透明」透かす・透ける・透き通る』.
本園研究紀要（2008）『探究力・活用力が発揮される生活2年次―「道具」持つ・選ぶ・活かす』.
お茶の水女子大学附属幼稚園・同附属小学校・同附属中学校（2006）「協働して学びを生み出す子どもを育てる―幼・小・中12年間の学びの適時性と連続性を考えた連携型一貫カリキュラムの研究開発1年次」文部科学省研究開発学校発表要項.
お茶の水女子大学附属幼稚園・同附属小学校・同附属中学校（2007）「協働して学びを生み出す子どもを育てる―幼・小・中12年間の学びの適時性と連続性を考えた連携型一貫カリキュラムの研究開発2年次」文部科学省研究開発学校発表要項.
幼稚園教育要領解説（2008）

＜平成26・27年度　研究同人＞

園長	藤崎宏子	副園長	伊集院理子
教諭	上坂元絵里	教諭	髙橋陽子
教諭	佐藤寛子	教諭	杉浦真紀子
教諭	灰谷知子	教諭	伊藤綾子
教諭	西垣友惠	養護教諭	渡邉満美
非常勤講師	大江由布子（写真・イラスト）	非常勤講師	佐々木麻美
非常勤講師	中村風花	非常勤講師	亀井彩
非常勤講師	藤田はなえ		

平成26・27年度
お茶の水女子大学附属幼稚園研究紀要
探究力・活用力が発揮される生活
―3・4年次―
平成28年2月1日

発行　お茶の水女子大学附属幼稚園
〒112-8610　東京都文京区大塚2-1-1
TEL　03-5978-5881
FAX　03-5978-5882
印刷　有限会社サンプロセス